

自己評価報告書(最終報告)

報告者

国際教育コース／石坂 広樹

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

所属する国際教育コースに入学する大学院生のほとんどが長期履修生であり、教員免許を1つだけでなく2つ取得しようとする者も多い。教科教育の内容・教授法・教材作りなどは、他コースの先生方にお任せするしかないが、本コースでは、国際理解教育及び国際教育協力を資する人材を育成することを主目的としている。国際理解教育及び国際教育協力の力を付けた人材が実際に教員となり、総合学習・国際交流を中心に学校教育を充実していくことが最終的に期待されている。よって、本コースにおいては、理論面だけでなく実践的な演習を多く取り入れている。小職の担当する授業でも、下記の通りその意向を取り入れており、今年度も踏襲・発展させていく。

①授業内容: 国際理解教育や国際教育協力には学際的な知識が要求される。よって、担当する授業では、教育統計学、教育経済学、国際開発学、プロジェクトマネジメントなど教育系大学ではなかなか学習できない分野をあえて取り上げている。

②授業方法: 授業はレクチャー形式だけではなく、プレゼンを積極的に導入し、教材開発系の授業では模擬授業を必ず課している。

2. 点検・評価

年度目標に掲げた通り、教育に関する学際的な分野についてレクチャー・演習するとともに、学生主体によるプレゼン・模擬授業を奨励し実施することができた。また、成績評価についてもレポート提出のみならずプレゼンや模擬授業なども考慮して総合的に評価することができている。学生による授業評価も概ね良好であり、すべて4.9前後となっており、期待以上の効果が見られた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

本年度は、コースの日本人学生数が大幅に増加することが予想されている。他方、本コースは国際理解教育・国際教育協力を資する人材を育成することを使命としているところ、外国語運用能力の強化、海外事情への精通が不可欠となっている。よって、教育内容においても外国事情・外国における教育現状を積極的に取り上げるだけでなく、英語や第二外国語を用いた授業を積極的に行っていく。幸い、授業で使う教材のほとんどが英語で作成しており、4月からの実施には問題はないものとする。学生生活面においても、JICAの短期研修を活用し、海外の教員との交流を頻繁にもっていくこととする。さらに、ほぼすべての日本人学生が教員になることを目指していることから、教採試験対策なども積極的に支援していくこととする。留学生については、一つでも多くの日本の教育現場に触れることができるよう、研究会などに引率していくこととする。

2. 点検・評価

後期では、海外でのフィールド経験・調査のプログラムを多数開発した。例えば、フィリピンやラオスにおいては、初等中等教育校との交流だけでなく、現地の授業観察・アンケート調査などを学生とともにやり、修士論文作成のための研究能力の向上を図った。また、学校教員として必要となる国際性もフィールド経験を積むことで飛躍的に向上させることができた。このようなフィールドのプログラムに参加した日本人学生は6名に上り、コースの学生の8割にのぼった。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

昨年度、若手研究(B)に採択されたことを受け、アフリカ地域の調査を開始した。これまで、フィジー、コスタリカのデータの電子化が完了しており、今後アフリカ地域(シエラレオネ・ガーナ)のデータの電子化を進めるとともに、論文作成に積極的に取り組んでいくこととする。

2. 点検・評価

本年度は、査読論文1本、研究報告3本、国内学会発表2回、国際学会発表2回と、期待以上の成果を上げることができた。若手研究(B)で収集したデータに基づいた研究発表論文も来年度に数多く予定されている。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

現在、入試委員会に所属しており、積極的に入試支援を行っていくこととする。

2. 点検・評価

入試委員会総務班の作業に積極的に参加できた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

附属学校の研究会に積極的に参加することとする。
社会連携・国際交流の一貫として、今年度も出前講座などを積極的に担当していく。
また、国際交流については、JICAの短期研修に携わっているところ、本コースの学生との交流を積極的に図っていくこととする。

2. 点検・評価

附属中学校の研究会に学生と共に参加し、学生の実践的な能力向上に貢献した。また、附属小学校から依頼された英語活動の支援も積極的に行い、同校の教育内容向上に貢献できた。また、JICAの短期研修を年間に複数受け入れ、開発途上国の教育内容向上に貢献した。
同研修にはコースの学生が参加できるように配慮し、学生の国際的素養の向上にも貢献できた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)